研究の現場から

令和六年度「道科研」研究活動方針
創立者から託された研究課題に向き合う

道徳科学研究所 所長
犬飼孝夫

重点三分野

道徳科学研究所（以下、「道科研」）では、研究体制を改編した令和三年度以来、以下の「重点三分野」を中心に研究活動を展開しています。

（1）新たな時代の倫理道徳のあり方を探究し、人類社会における諸課題の道徳的解決に資する研究

（2）家庭・学校・社会における道徳の教育・学習・実践の充実に資する研究

（3）廣池千九郎の事跡と思想の研究、および最高道徳論とその教育の深化・発展に資する研究

研究体制の改編以来、さまざまな専門性を有する研究者が協働して研究を進めることにより、研究者間の相乗効果が生まれ、研究活動がより活発になっています。また、コロナ禍を経て、研究会や研究フォーラムなどがオンラインでも公開されるようになり、遠方にお住まいの皆様にも、インターネットで研究会にご参加いただけるようになりました。

「三十四項目」の検討

道科研では「『道徳科学の論文』第三緒言」（新版『道徳科学の論文』①一二七～一三九頁）の第二条で示されている三十四項目の「引き続き研究を必要とする諸項目」の検討に着手しました。昨年度は五月、十一月、一月、三月の四回にわたり、「三十四項目」をテーマとする研究会を開催し、創立者がどのような意図でこれらの研究課題を後世に託したのか、これらの研究課題について道科研および内外の学界においてどのような研究がなされてきたのか、そして今日、いかなる課題が残されているのか吟味を進めました。その成果の一部を、十一月に開催したオンライン道徳科学研究フォーラム「『道徳科学の論文』を現代的視点からとらえる（1）人間・生命・精神の進化」にて発表し、ブックレットとして出版しました。このブックレットの購入を希望される方は、出版部（☎04-7173-3155）までご連絡ください。

「モラロジーの研究」を担う

財団の「定款」第三条には「この法人は、モラロジーの研究をなし、かつ、モラロジーに基づく社会教育と福祉事業を行い、もって世界の平和、人類の安心と幸福の増進に寄与することを目的とする」と謳われています。

道科研は、この財団の最も重要な目的の一つである「モラロジーの研究」を担う研究部門として、本年度も引き続き、創立者が後世に託した研究課題を現代の最先端の科学的知見でしっかりと受け止め、「時代を超えて通底する道徳原理」の探究を進めると共に、多様化が進む現代における「社会的課題の道徳的解決」と「人類の安心・平和・幸福の増進」に向けて、本質的な方向性を打ち出し、財団の教育活動・社会活動の充実に研究的視点から貢献していきたいと思います。

引き続き、道科研の活動にご理解とご支援を賜わりますようお願い申し上げます。